

## 第16節 農業高等学校の体質改善

### 1 概 要

昭和38年度は、前年度に引きつづき県単3年次本校5校分校7校を指定し、文部省農業教育近代化促進補助による3か年継続事業2年次2校、1年次3校計5校が指定され充実されることになった。このことは、国の農業基本法に基づく農業構造改善事業を推進する自営者の養成を目指し、農業高校の地域農業に果たす役割が明確化され、近代化された施設設備の充実と相まって学習内容も農業経営技術が主眼となってきた。

農業教育が時代の進展に即応するため教育課程が改訂され実施に移されたが、基礎学習はもとより、高度な企業経営についての学習がとりいれられ機械化された省力的飼育栽培方式の研究、ならびに地域に立脚した経営能力を実習体験させなければならない。これがため各学校においては、広範囲な内容のとりあげかたでなく、重点的かつ一貫性をもたせ施設設備の整備充実につとめる必要がある。

近代化された施設のもとに、省力化される設備が充実され生産される過程において1か所でも不備な点が生ずることのないような工程としなければならない。これらの施設、設備の活用を多くの角度から研究するところに経営能力がつかわれ、企業農業としての生産に対する総合能力を養うことができる。

整備充実された施設、設備を活用した新しい指導法の研究が今日の大きな課題であり、精選された指導項目の選択が各学校の課題であり、農場に対する実験実習に対する考え方、運営方法についても問題点は包蔵されている。

学校教育が個々の農家、経営の指標となるよう指導することは容易なものではなく、技術革新ならびに産業構造とりわけ農業構造改善事業に対処して、基礎的科学技术、経営技術教育の場であり、応用能力を養成する場ではない。同時に教育に携わる関係者として、単に施設、設備のため、機械のために動かされて教育本来の姿に徹しきれないとの声を聞くが、限られた単位のなかで実践し、体験、理解させ、能率的に体系づけ、指導方法の研究改善をはかってゆくことこそ農業教育者に課せられた課題であり、農業高校体質改善施策の本流として、その充実強化をはかった。

### 2 実 施 状 況

#### (1) 文部省 高等学校農業教育近代化促進費補助 対象校

##### ア 福島農蚕高等学校（2年次）

2,643千円 園芸科、果樹園芸を主として近郊都市野菜、温室園芸を充実強化した。—温室30坪、スピー

ドスプレヤーなど。

##### イ 相馬農業高等学校（2年次）

5,274千円、畜産科、豚舎を中心として、牛、鶏舎計53坪、大型ホイルトラクター（ポルシエ）付属機械などを導入、企業化体系への基礎を確立した。

##### ウ 岩瀬農業高等学校（1年次）

3,643千円、畜産科、大、中、小家畜を年度毎の計画にしたがって実施する。本年度牛舎、飼料貯蔵庫計40坪、乳牛を購入、近代施設による地域への普及をも合せて教育する。

##### エ 会津農林高等学校、磐城農業高校（1年次）

各2,196千円 高冷地ならびに都市近郊園芸として温室（各30坪）を設置して、礫耕栽培を実施し、高度温室園芸の研究に資する。

### (2) 県 単 独 事 業

#### ア 全日制高等学校

##### ① 農業科畜産を充実した学校

白河農業高等学校 2,450千円 鶏、豚の多頭数羽飼育を中心として充実強化した。

耶麻高等学校 2,500千円 畜産加工を中心として施設、設備の充実強化をはかった。

##### ② 畜産科を充実した学校

福島農蚕高等学校 1,050千円 1,000羽養鶏のためケージ鶏舎の施設を強化した。

大沼高等学校 1,000千円 多頭数羽飼育のための養鶏施設を充実強化した。

##### ③ 林業科を充実した学校

田島高等学校 1,000千円 林業科、育林技術の高度化をはかるための管理施設、育林設備を充実強化した。

#### イ 定時制高等学校

自営者のなかでも、働きながら学ぶ生徒を対象としたので、重点的に畜産教育を充実強化するための施設、設備を整備した。

充実学校名（各校1,000千円宛）

安達高等学校 大平分校

” 針道 ”

本宮 ” 白沢 ”

小野 ” 平田 ”

小高農工高校 津葛 ”

相馬農業 ” 飯館 ”

南会津 ” つつじ丘”（850千円）

### 3 主な施設、設備の概況

#### (1) 工事請負費 15,976千円

文部省 7,200千円（内国庫2,400千円）

県単独 8,776千円

牛舎、豚舎、鶏舎、果樹選果場、飼料貯蔵庫、生産